

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	<b>武雄市立川登中学校</b>
1 前年度 評価結果の概要	<p>評価項目の12項目中11項目について、十分達成することができた。「おおむね達成」の状況である1項目については、以下のようにして改善を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での学習を効果的なものにするため、家庭学習を充実させる。そのために、家庭での課題の取り組み方を示したり、タイムマネジメント能力、自己調整能力を向上させるための指導を行ったりしていく。</li> <li>・その他、今後より力点を置いて指導すべき内容として、以下のような取り組みを行っていく。</li> <li>・生徒が夢や目標をもって何事にも取り組むことができるように、総合的な学習の時間や学校行事をこれまで以上に充実させる。また、自己実現に向けて、生徒が自己肯定感を高めるためのスキルを教職員が身につけていく。</li> <li>・思考力・判断力・表現力を高めるために、協働学習に取り組ませるとともに、校内研修等で効果的な協働学習の方法について習得する。</li> </ul>
2 学校教育目標	<b>自立の精神に満ちた豊かな人間力の育成</b>
3 本年度の重点目標	<b>(1) 確かな学びの充実 (2) 豊かな人間性と社会性の育成 (3) 主体的な活動の推進 (4) 地域との共生と創造性の育成</b>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価				主な担当者	
(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師の割合を80%以上にする。	□教職員間でマイプランを共有するとともに、教科、学年、校内研修などにより、取組の推進を図る。							・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○基礎・基本の習得と活用を図る指導	○『めあて』の提示を工夫し、『協働的な学習』を取り入れたことで、自分の考えが深まったり広がったりした」に、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。 ○基礎・基本の定着および活用を見取る場面を設定し、授業中のふりかえりができたと回答する生徒、教師の割合を70%以上にする。	□授業や家庭学習において、課題の出し方を工夫する。 □授業づくりにおいて、 (1)『めあて』の板書については、生徒たちが理解できる具体的な目標にする。 (2)『協働的な学習』については、話し合いの目的や進め方、時間などを示して、主体的に学び合わせる。 (3)『まとめ』については、『めあて』と対応したものを明確に示し、振り返りが深まるようにする。について取り組む。							・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○家庭と連携した学習環境づくり	○平日の家庭学習時間が1時間以上になる生徒の割合を80%にする。	□学活において、自分の学習方法や計画について検討改善する機会を、学期の当初に1回ずつ設定する。 □生活習慣アンケートを行い、改善点を見出し、全職員でその対策について取り組む。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全学級「道徳」の授業を保護者等へ公開する。 ○特別の教科「道徳」の指導法に係る研修会を年1回以上実施する。	□道徳の授業年間35時間しっかりと教師が取り組む。 □講師招聘による「考え・議論する道徳」に関わる職員研修会を行う。							・道徳教育推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員の割合を80%以上にする。	□早期発見・早期対応できるように、生徒の変化や様子について、こまめに情報交換を行い、共通理解する会議も月に1回設ける。 □いじめの対応についての研修会を年間1回以上行う。							・生徒指導主事
	◎生徒が夢や目標をもち、実現に向かう教育活動の推進	○将来の夢や目標をもつ生徒の割合を80%以上にする。	□1年生は職業調べや職場見学などを通して、2年生は職場体験などを通して、3年生は全校のリーダー的行事、立志式などを通して、将来の夢や目標について考え、深める機会をもつ。 □1月に、全学年の生徒に、今年の抱負や目標を決めさせ、夢を実現させるためにはどのようにすればよいかを具体的に確認させ、1年間の見通しをもたせる。							・進路指導主事 ・各学年主任
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食を毎日食べている」生徒の割合を95%以上にする。	□朝食の大切さについての学習や掲示板などによる啓発を学期に1回以上行う。 □月ごとに食育だよりなどで家庭への協力を呼び掛ける。							・食育・給食担当
	○部活動の推進	○「部活動が充実している」と答える生徒の割合95%以上にする。	□顧問・外部指導者・保護者との連携を密にし、部活動を充実させる。 □臨場による指導を増やし練習の質の向上を目指し、主体的に練習に取り組むよう指導を行う。							・体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	□定時退勤日、学校閉庁日、部活動休養日の設定をする。 □これまで作成されたデータの有効活用を行う。 □校務分掌の細分化および輪番制により負担を軽減する。							管理職
	○教職員の連携促進	○明るい職員室づくりを目指し、使命感と情熱にあふれ、教師力の向上に努める職員集団を目指す。	□朝礼や業務上のコミュニケーションを大事にし、それぞれの業務の進捗等の情報を共有し、チームで協力して業務を遂行できるようにする。 □時間外の時間を削減するため、会議や事務の効率化を図る。							管理職
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	○ICT機器を利用した学ぶ意欲を高める指導の工夫	○タブレットPCを使った学習時間を年間100回以上行う。	□タブレットPCを使った学習については、掃除終了後に全学級確実に行う。 □電子黒板と生徒用タブレットPCを活用した授業研究会を実施すると共に、有効活用について研修を行う。							
○地域と学校の協働による学校づくり	○地域と学校の相互の関わりを深める教育活動の推進(コミュニティ・スクール)	○地域人材を活用した授業や行事を年5回以上実施する。 ◇情報公開を推進し、学校HPの更新回数を月に5回以上行う。	□学校運営協議会を開催し、地域人材を生かした教育実践ができるように、連絡調整を密に行う。 □地域の講師を招聘し、地域の伝統文化の継承を行う。 □学校HPや配信メールにより常に新しい情報を豊富に提供する。 □学校だよりや学級だよりを定期的に発行する。							・教務主任 ・教頭

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--